

再生可能エネルギー活用の啓発・普及および環境教育を目的に

香港の小中学校3校に太陽光発電システムを寄贈



外務省「日中青少年交流推進年」認定行事

公益財団法人イオン環境財団（以下、当財団、理事長 岡田卓也 イオン株式会社名誉会長相談役）は9月12日（木）、中華人民共和国香港特別行政区（以下、香港）の小中学校3校に太陽光発電システムを寄贈します。

再生可能エネルギー活用の啓発・普及および環境教育を目的に、当財団の設立20年を契機に2009年より小中学校に太陽光発電システムを寄贈しています。これまでの寄贈先は、日本・中国・マレーシア・ベトナムの4か国、合計48校となり、本年は昨年に続き香港の小中学校3校に寄贈します。

当財団は、同国において、環境課題に取り組むとともに、日本と中国のさらなる国際協力を促進するため、1993年より「日中環境国際シンポジウム」を開催しています。2015年には北京市で4回目のシンポジウムを開催し、北京市人民政府と合意し、発表した「イオン北京環境提議」に基づき、北京市密雲での植樹と武漢市の小中学校10校に太陽光発電システムの寄贈を実施しました。これに続き、昨年からは香港の小中学校にも寄贈しています。

なお、本事業は、外務省「2019日中青少年交流記年事業」に認定されました※。

当財団は、両国におけるより一層の交流促進に貢献するとともに、これからも、いのちあふれる美しい地球を次代の子どもたちへ引き継ぐため環境保全活動に積極的に取り組んでまいります。

※外務省は、日中間の青少年交流の強化を後押しするために、2019年を「日中青少年交流推進年」とし、趣旨にふさわしい行事に対し認定を行っています。

記

贈呈式日時	2019年9月12日（木）9：00～10：30		
贈呈式場所	永旺（香港）百貨有限公司（イオンストアーズ香港） イオンスタイルコーンヒル店 1階セントラルコート		
主催	公益財団法人イオン環境財団		
共催	永旺（香港）百貨有限公司 AEON 信託財務（亜洲）有限公司（イオンクレジットサービスアジア） AEON TOPVALU (Hong Kong) Co., Ltd.（イオントップバリュ香港）		
後援	在香港日本国総領事館		
寄贈先	東華三院姚達之記念小学、油蔴地天主教小学、東華三院張明添中学		
出席者	香港特別行政区政府	環境局副局長	謝 展寰 様
（予定）	在香港日本国総領事館	大使兼総領事	和田 充広 様
	東華三院	主席	蔡 榮星 様
	天主教香港教區	教育事務主教代表	劉 超賢 様
	永旺（香港）百貨有限公司	董事総経理	中川 伊正
	公益財団法人イオン環境財団	事務局長	山本 百合子

以上

ご参考

【公益財団法人イオン環境財団について】

「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」というイオンの基本理念のもと、1990年に設立されました。設立以来、環境活動に取り組む団体への助成や、国内外での植樹活動、生物多様性への取り組みを主な事業として、さまざまな活動を継続しています。イオンの植樹本数は1991年のスタートから数え、当財団の植樹本数と合わせて累計1,193万本（2019年2月末時点）を超えています。

（イオン環境財団ホームページ <http://www.aeon.info/ef/>）

【中国における公益財団法人イオン環境財団の活動について】

《環境教育》

■太陽光発電システム寄贈

当財団は、設立20周年の記念事業として、日本国内外の小中学校へ2009年より再生可能エネルギー活用の啓発・普及と環境教育を目的に、太陽光発電システムを寄贈してきました。

2016年から2017年までの2年間、中国武漢市の小中学校合計10校に寄贈。また香港では2018年に3校に寄贈しています。

〔香港での寄贈先〕

（2018年）滬江小学・東華三院邱子田記念中学・東華三院呂潤財記念中学、計3校



（2018年 贈呈式）



（2018年 滬江小学の生徒が太陽光発電システムを視察）



（2018年 東華三院邱子田記念中学の太陽光発電量電子標示板）

■アジア学生交流環境フォーラム

当財団は2012年より、国連生物多様性の10年のスタート年を契機として、グローバルな視野で活躍する環境分野の人材育成を目的に、アジアの大学生を対象に「アジア学生交流環境フォーラム（Asian Students Environment Platform: ASEP）」を毎年実施しています。

中国では2014年に開催し、清華大学（中国）、早稲田大学（日本）、高麗大学校（韓国）、マラヤ大学（マレーシア）、ベトナム国家大学ハノイ校（ベトナム）の5カ国80名が参加しました。同年の教育プログラムは開催国の幹事校である清華大学監修、早稲田大学協力によるもので、「水と人」をテーマに、北京、天津、内モンゴル、成都などでフィールドワークを実施し、生物多様性について考察を深めました。



（2014年 中国開催 ASEP）

《イオンの森づくり》

■2007年「香港植樹」

2006年の山火事により木々が焼失した大欖郊野公園において、香港政府による修復プログラムが行われていることを受け、2007年6月に、近隣の住民や学生、日本からのボランティアの皆さま合わせて400名とともに、2万本の苗木を植えました。



(2007年香港植樹)

■1998年～2010年「万里の長城・森の再生プロジェクト」

「日中環境国際シンポジウム」での提案をきっかけに、当財団は1998年から「万里の長城・森の再生プロジェクト」を開始しました。継続的な植樹活動を通じて累計約15,000人の日中ボランティアの方々のご協力のもと、2010年には植樹本数が100万本を超えました。その後、2013年には育樹活動として、木々のメンテナンスなどを行いました。



(2010年 北京市万里の長城植樹)

■2005年～2007年「青島市ラオ山ダム植樹」

青島市にあるラオ山ダムは、黄河から水を引き、長く同市の水源として利用されていました。同ダムがその役割を終えたことに伴い、青島イオンが青島市政府から要請を受け、同ダムを市民の憩いの場とするため、青島市城陽区人民政府とともに植樹を行いました。3,493名の日中両国のボランティアの方々が、クロマツ、マルバハゼ、カエデ等30,000本の苗木を植えました。

■2008～2011年「山東省烟台市植樹」「山東省威海市植樹」

2008年7月、烟台市政府から要請を受け、近郊の辛安河の水源涵養林の育成を目指して植樹を行いました。日中両国のボランティアの方々2,519名が25,000本を植えるとともに、市民同士での日中友好を深めました。また同様に威海市において、日中両国のボランティアの方々1,400名が参加し、12,000本を植えました。



(2008年 山東省烟台市植樹)

■2014年「蘇州市植樹」

蘇州市が擁する中国第三の大きさを誇る淡水湖「太湖」周辺は、護岸工事などの開発により環境破壊が進んでいましたが、同市による生態系の修復および環境再生の取り組みが行われ、当財団はその計画に賛同し、700名のボランティアの方々と湖畔の埋め立て地に30,000本の植樹を行いました。東山鎮固有種であり他の地域では見られない柑橘系樹の植樹や育樹を実施し、地域の環境意識の向上を願うとともに、東山鎮の古い町並みや文化を保護し後世へ残します。



(2014年 蘇州市植樹)

■2016年「北京市密雲植樹」

密雲は北京市北東部に位置しており、同市で利用する水量のうち3分の2を供給する、華北地方最大の密雲ダムを有しています。同ダムの周辺住民ならびに北京市民の水資源を確保するため、日中両国のボランティア800名の皆さまとともに、地域に自生する7,500本の苗木を植えました。



(2016年 北京市密雲植樹)

《日中環境国際シンポジウム》

当財団は、地球環境の保全が世代と国境を超えた課題であることをふまえ、日中のさらなる国際協力を促進するため、1993年から4回にわたり「日中環境国際シンポジウム」を開催しています。

第1回（1993年）：テーマ「環境問題と人間社会」

「地球の未来を守るために」という共通視点のもと国際協力を促進するため、全体会議および分科会において活発な討論が行われました。海部俊樹元首相が出席されたこの回では、民間レベルにおける環境協力についての大枠指針がまとめられるとともに、シンポジウムの継続的な開催が合意されました。



(第1回 日中環境国際シンポジウム)

第2回（1995年）：テーマ「環境問題と人間社会」

撫順市での事前実地調査を討論資料とし、特に大気汚染対策に絞って両国の環境協力推進を合意しました。また、廣中和歌子元環境庁長官が出席され、都市の経済発展に伴う環境問題や環境保全の技術、環境法などについて討議が交わされました。本シンポジウム内で、環境保全の必要性と重要性を世界に向けて発信するため、「万里の長城・森の再生プロジェクト」が提案されました。

第3回（1997年）：テーマ「環境問題と人間社会」

海部俊樹元首相がご出席のもと、経済社会の持続的発展に向けて、エネルギー対策と環境保全、水資源及び水環境の確保、経済、社会および環境が調和する発展戦略について議論されました。また、本シンポジウムを契機に「万里の長城・森の再生プロジェクト」の準備が始まりました。



(第3回 日中環境国際シンポジウム)

第4回（2015年）：テーマ「国際社会における環境改善と社会の持続的発展」

グローバルに活躍する両国の専門家・有識者が一堂に会し、環境改善と社会の持続的発展についての討議が交わされました。また、本シンポジウムの総括として、世界に向けて「イオン北京環境提議」を発表しました。



(第4回 日中環境国際シンポジウム)

「イオン北京環境提議」

2016年から、下記に取り組むことを表明

1. 新たな植樹活動の取組みを通じた日中ボランティアの交流
2. 日中青少年環境教育活動を協同で取り組み環境保全に関する交流の促進

《北京市人民政府からの表彰》

当財団の理事長 岡田卓也は、2009年、長年にわたる北京市の社会発展に貢献したことが評価され、北京市より「北京市榮譽市民」を受賞しました。

「北京市榮譽市民」は、北京市に貢献した外国人に与えられる最高の称号で、これまでに世界で32名が受賞しています。日本人の受賞者としては3人目です。北京市で行われた授賞式で、郭金龍（かく・きんりゅう）北京市長（当時）より「北京市榮譽市民」の称号が授与されました。



(「北京市榮譽市民」の称号を受賞)

《武漢市人民政府からの表彰》

当財団の理事長 岡田卓也は2015年、武漢市国際諮詢顧問団として武漢市の発展に貢献していることを認められ、武漢市人民政府から「黃鶴友誼賞」を受賞しました。